

ルと下落。ユーロ安の影響もあり下落した。

KLTM錫は54.2セント続落 採算値は9,000円安

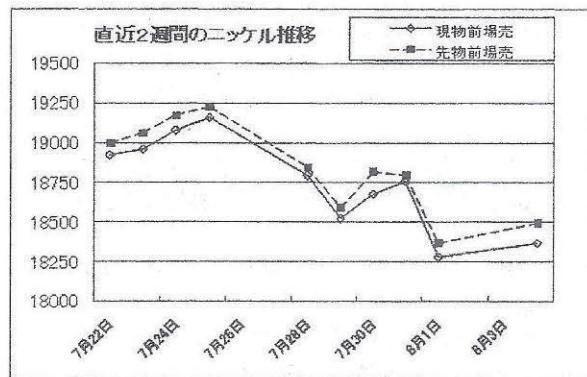
KLTM錫は54.2セント安の71.534Mドルと続落。USドルは100ドル安の2万2,400ドル、出来高は55トン。Mドル/USドルレート=3.1935とTTSレート103.62円で換算した採算値は9,000円安の232万6,000円、諸掛込みの採算値も9,000円安の248万6,000円。

橋本健一郎氏の銅7月レポート及び8月見通し

■概況:前半はポルトガル最大の銀行バンコ・エスピリト・サントの短期債務返済見送りによる株式取引停止報道や中国貿易統計で輸出、輸入とともに事前予想を下回るなどのマイナス材料もあったが注目の6月の米雇用統計で米非農業部門雇用者数は28.8万人増加し予想の21.5万人増、失業率は6.1%に低下し予想の6.3%を下回る。米週間新規失業保険申請件数は31.5万件に増加し予想の31.3万件を上回り、5月の中国HSBC製造業PMIは50.7に下方修正、ただし前月の49.4からは改善したことなどを好感し上昇。7月15日現在7154ドル(セツル)と前月最終価格より178ドル上げて前半締めとなった。

後半は中国の新規融資額が1兆800億元と予想の9150億元を大幅に上回ったこと、6月の中国の粗鋼生産は1日平均231万トンで過去最高を記録。2Qの中国GDP伸び率は前年比+7.5%で予想の+7.4%を上回る。6月の中国鉱工業生産は前年比9.2%増加と予想の9%増加を上回るなどプラス材料もあったがEU首脳会談でウクライナ情勢を巡り対ロシア制裁強化で合意したこと。米国がロシア石油最大手など4社を中心とした追加制裁を発表したこと、インドネシアFreeportの銅鉱石輸出再開したことから下落。8月4日現在、前半締めから78ドル下落の7078ドル、建値78万円のスタートとなった。

■前月の経済指標:月間のドル/円レート(TTS)は102.28円→103.74円。日本自動車工業会による自動車生産台数は前年比+6.6%の85万7317台。日本自動車販売協会連合会による自動車販売台数(軽除く)は同+0.6%の28万5886台。国土交通省統計による新設住宅着工戸数は同-9.5%の7万5757戸であった。貿易関連指標を見ると、財務省貿易統計による輸出は前年比で電気銅が-6.2%の3万8253トン、スクラップが-3.8%の2万8977トン。輸入は電気銅が-18.1%の4435トン、スクラップが同+125.2%の8927トンであった。前月の国内指標を見ると、日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)では前年比+6.7%の7万820トン。日本電線工業会発表の銅電線出荷速報(推定)は



同+1.2%の5万8200トンであった。

■見通し:今月はロシア・ウクライナ情勢の行方及び中国の景気対応に一喜一憂した月となった。

自動車生産は85万7317台で前年同月の80万4125台に比べ5万3192台増(+6.6%)となり10ヶ月連続で前年同月を上回った。乗用車は72万7606台で4万7895台増(+7.0%)と10ヶ月連続のプラス、トラックは11万7512台で4630台増(+4.1%)と12ヶ月連続のプラス、バスは1万2199台で667台増(+5.8%)と3ヶ月ぶりにプラスとなった。輸出は前年同月比4.0%の減少(実績)。6月の国内自動車販売台数(軽除く)は前年比+0.6%の28万5886台で1ヶ月ぶりプラス。内、乗用車+0.3%、貨物+2%、バス+14.1%。6月の住宅着工戸数は前年同月比9.5%減の7万5757戸、季節調整済年率換算値で前月比1.3%増の88.3万戸で前年同月比は4か月連続マイナス。このところ消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動もあって実数では前年同月比で減少している。一方、季節調整値では前月より若干の増となった。分譲マンションの着工についてでは建築費の上昇や人手不足等の影響により契約・着工が先送りされているとの事業者の

筋書き(未了TTS)

1月	2月	3月	4月	5月	6月
生産台数	77万484台	77万403台	85万7317台		
前年比	+3.4%	+6.1%	+6.6%		
5月					
販売台数	20万6906台	26万5171台	28万5886台		
前年比	-5.6%	-0.7%	+0.6%		
6月					
新設住宅着工数	7万5286戸	6万7791戸	7万5757戸		
前年比	-3.3%	-15%	-9.5%		
7月					

見方がある。このような状況や持家における受注の減少が今後着工の減少にどの程度の影響を与えるのか等について引き続きその動向をしっかりと注視していく必要がある。持家は前年同月比で5か月連続減(前年同月比19.0%減、季節調整値の前月比5.0%増)、貸家は同16か月連続増(同1.8%増、季節調整値の同1.5%減)、分譲住宅は同5か月連続減(同11.9%減、季節調整値の同14.4%増)、分譲マンションは同5か月連続減(同24.5%減)となった。

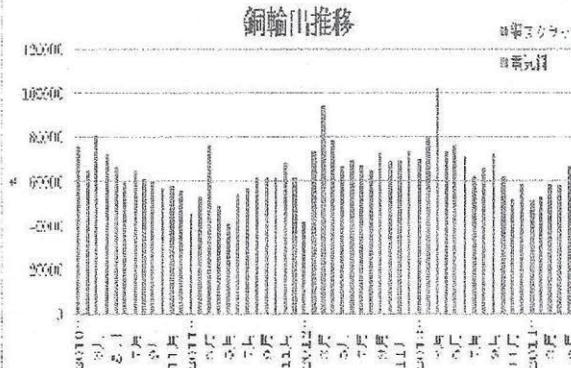
伸銅品生産は前年比+6.7%の7万820トンと12カ月連続プラス。内需5万8913t(+7.6%、10カ月連続)、輸出1万1907トン(+1.4%、15カ月連続)、銅条2万1260トン(+8.1%、12カ月連続プラス)、黄銅棒1万6785トン(+6%、12カ月連続プラス)。銅電線出荷量は前年比+1.2%の5万8200トン。うち、国内+5.1%、輸出+168.3%、通信+0.7%、電力-0.4%、電気機械+9.5%、自動車+1.7%、建設電販+6.4%、その他内需-4.1%。輸出に関しては電気銅が前年比-6.2%の3万8253トン、銅スクラップは-3.8%の2万8977トン。先行き不透明感はあるが足元の生産は好調な需要を背景に国内需要家が原料手当てを急いだため電気銅、スクラップ輸出は減少したと見解。輸入は電気銅が-18.1%の4435トン。スクラップは+125.2%の8927トン。電気銅は製造業が比較的好調なもの1円程度円安が進んだことによる割高感から減少。スクラップは国内発生屑の減少及び好調な内需から大幅増加したと見解。

銅需給に関して、住宅関連は新設住宅着工数が前年比-9.5%、持家-19%、貸家-1.5%、分譲住宅-11.9%、分譲マンション-24.5%と大幅減少。消費税前の駆け込み需要も終了し4カ月連続減少、消費税特需も終了か。自動車は生産が10カ月連続上昇の+6.6%、また7月の国内販売台数が前年比+0.6%と1カ月ぶり微増。販売が微増ではあ

るが1カ月ぶり増加、また生産は堅調のため来月以降に注目。消費税前の駆け込み需要の反動から2本柱の住宅が減少傾向にあった。ただ自動車は販売生産共に戻している。共にどの水準で落ち着くか注視したい。スクラップは為替が前月から変わらずの102円-103円(TTM)近辺だがLME上昇を受け建値が78万円付近まで上昇したこと、夏季休業から在庫分が出回り今月は需給が緩むのではないか。

銅価格に関して、今月は中国の景気対策及びロシア・ウクライナ情勢に左右される。中国の景気対策に関しては一部に限って行っていた住宅購入制限の撤廃の範囲を広げるなど住宅問題に手を付けていた事や銀行への融資規制を緩めるなどを行っており、またその効果が指標となって表れ始めてることを考えれば今月は後退することはないのではないか。ロシア・ウクライナ情勢に関しては米欧が対ロシア制裁を強めてるものの欧州にとってはガス供給問題もはらんでおり制裁が一方的に進むとは考えにくい。それらを踏まえた8月の銅価格は中国の景気回復がさらに進みロシア・ウクライナ情勢が少なくとも現状から悪化の無い場合、7月高値のもう一段高の7250ドルを予測、いずれかの場合は7100ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合、もう一段安値の6900ドル。為替は先日のFOMC議会証言でFRBが利上げを急がず米国の低金利政策は当面続くと受け止められたことから当分は102円-103円の水準がつづくもののポルトガル債務懸念やイラク情勢などの地政学リスクに左右されるのでは。イラク情勢やポルトガル債務懸念が悪化した場合は欧洲経済へ影を落とすとの判断の円・ドル高から上値は7月高値の102円台、下値は変化なければ104円まで円安進むとの予測。銅建値に関しては750-800円程度と予測。

輸出	4月	5月	6月
電気銅	3万6486t	3万9250t	3万8253t
前年比	-18.7%	-19.2%	-6.2%
スクラップ	2万1617t	2万7359t	2万8977t
前年比	-23.9%	-2.1%	-3.8%



輸入	4月	5月	6月
電気銅	3374t	9508t	4435t
前年比	-33.2%	+649%	-18.1%
スクラップ	6569t	7247t	8927t
前年比	+27%	+49.4%	+125.2%

